

青梅市親子ふれあい綱引き大会

～綱でつなげる絆～

8人で45秒間引き合います。選手もですが、応援もあつくなります。次々と小曾木地区の試合、会場を駆け回っての声援です。チームのネーミングに思いをよせながら、みんなで一つになれる45秒。綱でつながった絆を大切に地域もつながっていきましょう。

(島田福美)

【大会結果】

2月5日(日)に青梅市総合体育館で開催された第15回青梅市親子ふれあい綱引き大会。エントリーは全86チーム。小曾木地区からは、小学生7

チーム、中学生1チーム、一般男子2チーム、一般女子1チームの計11チームが参加。決勝トーナメントへ進出し入賞したのは、小学校低学年の部【優勝】七小ファイターズ3、小学校高学年の部【準優勝】バナナ一エイト、中学生男子の部【優勝】青梅6中運動部+1、一般女子【準優勝】ストロングマン6の4チームでした。



優勝した青梅6中運動部+1

奥多摩町の若者定住対策についてのワークショップ開催 おそきの学校と地域を考える会

1月17日(火)、奥多摩町の若者定住化対策について学び、情報交換を行うワークショップをおそきの学校と地域を考える会で実施しました。



奥多摩町は人口約5千人、年少人口(0~14歳)や生産年齢人口(15~64歳)は一貫して減少

傾向にある一方、老年人口(65歳以上)は増加しています。平成26年に日本創成会議推計で「消滅可能性」が都内でもっとも高いとされて、学校の統廃合も余儀なくされました。

少子化対策・定住化対策総合計画スタート

危機感を強めた奥多摩町は少子化対策・定住化対策総合計画(緊急3か年計画)を策定し、子育て支援・町営若者住宅の建設・空家調査活用システムの

構築・空家活用促進事業交付金(相続や片付けへの費用助成)・若者定住応援補助金などの事業を推進しています。費用は奥多摩町予算62億2千万円の約1.5%の9千3百万円程度です(町営若者住宅建設費は除く)。

成果が現れる

成果は現れ、人口減少割合が年少人口、生産年齢人口で緩やかになり、ポイント制を作って移住者を受け入れ150件の待機者がいる状況とのことです。

移住者を受け入れるには空家対策の充実が、定住化の促進には教育と福祉の充実が大切との自信を持ってのお話しが印象に残りました。移住者は遠方からの方が多くそうです。最近では好事例として各地からの視察を受けることも多いようですが、「都心まで1時間30分は不便でなく便利です」と言われる場面もあるとのこと。

同じ地域課題を抱える小曾木地区にとっては、とても分かりやすく、また、うらやましくもあるお話でした。今後の活動に活かして行きます。

平成29年 青梅市成人式

今年、青梅市で成人式を迎えた方は、男子777名、女子680名、計1,457名。

1月9日(祝)に成人式会場の青梅市総合体育館に集まった小曾木地区の新成人に集まっていたら、記念写真の撮影を行いました。



今年の成人式の司会は、写真のように富岡3丁目の川鍋宏明君が立派に務めました。

